

経営者の健康管理、メンタルヘルスについて学ぶ



経営者の過重労働も問題

- 把握が難しく、対処も遅れる
- 一般に、長時間労働でも自己采配の働く仕事ではストレスはそれほど強くない、と言われることもあるが...
- 一方、裁判で問題となった自殺者の多くが管理者あるいは若手従業員とされる
- 経営者も上記管理者と同じ立場にある
- (法人である会社と個人が分離していないことが多い)

61



藤田晴康 氏

8月8日、伊勢崎市・群馬県職業能力開発協会において群馬県農業機械商業協同組合（木村英男理事長、組合員75人）を対象に、「経営者のための健康管理」をテーマに講習会を開催した。講師は、医療法人高柳会赤城病院副院長 藤田晴康氏。

とくに経営者と関係する健康管理上の問題として、①「生活習慣病」がん、心臓病、脳卒中」、②「過重労働」、③「メンタルヘルス」の3つを挙げ、それぞれの対策について説明を行った。

①の「生活習慣病」については、「高血圧」「肥満」「糖尿病」「高脂血症」の4つの危険因子を紹介し、ひとつひとつの因子が軽くても重なると将来大きな病気を起こす危険度が一気に増すことを説明。

②の「過重労働」については、

経営者の場合、法人である会社と個人が分離していないため、把握が難しく、対処も遅れる点を指摘。自らが「過重労働」か否かを捉える視点として労働時間、疲労の蓄積度、睡眠時間を紹介し、それぞれのチェック方法について説明した。とくに、健康度と直結する睡眠時間の確保の重要性について強調した。

③の「メンタルヘルス」については、②の過重労働との相関が強く、経営者の場合、一般従業員と比較して大きなプレッシャーがかかり、うつ病を発症しやすい環境下にあることや、管理してくれる人がいないこと、トップであるがゆえの意地やメンツが対処を遅らせる。経営者はこうした傾向があることを十分に認識した上で、自分の性格や行動パターンを把握し、意識的にセルフケアを取り入れることの重要性について強調した。

◎研修を終えて

経営者が抱える日々のプレッシャーは、相当なものでしょう。従業員対象の研修会と同様に、経営者だからこそ健康について考える時間をもつべきだと思います。

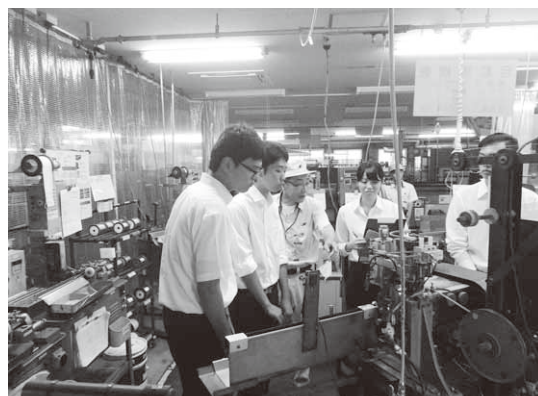
地域中小企業の人材確保・定着支援事業 企業見学会開催



9月5日、地域中小企業の人材確保・定着支援事業企業見学会を開催し、学生達が県内の企業の現場を見学し、仕事場の雰囲気や実態などを生で感じた。

初めに訪問したのは、藤岡市鬼石の株式会社サカ工鬼石工場。同社はヒーター機器、医用・科学機器、事務機器の異なる分野のものづくりを行っている。中でも家電メーカーの電気温水器向けのヒーターにおいては、約9割のシェアを占めている。一行は、ヒーターの製造工程を製品の流れに沿って見学した。600℃までに加熱した製品を一時保管する場所には、注意を喚起する表示や、製造時のチェック箇所を示す写真の貼付を行うなど現場の作業効率アップや安全確保のための様々な工夫を間近に見た。また、医療機器の製造現場では、医療機関向けの検査機器の組立作業や血糖値検査機器の製造工程の見学を行った。

案内役の総務部長より、「企業は世界で働ける人材を求めている。語学力はもはや武器ではなく、必須となっているので必ず身に付けて欲しい」と学生達にエールが送られた。



工場内で熱心に説明を聞く学生達

続いて訪れたのは、藤岡市牛田の東京特殊硝子株式会社藤岡工場。同社は、液晶テレビやスマートフォンなどで使用されるガラスを供給するガラス加工メーカー。一行は、日本最大級のガラス研磨機の作業現場を始め、段階的な研磨の作業工程の見学を行った。扱う製品は多品種なため作業は不規則。また、ガラスは微細な傷ひとつで不良品となってしまう。そこで研磨作業の現場では、細心の注意を払うと共に、2人1組が基本となり、連帯意識とコミュニケーションが大変重要であると説明を受けた。

その後、会議室に移動し企業活

動の説明を受け、企業の発展向上には、顧客ニーズへの対応、品質向上、合理化が大切であること。また、品質向上の一例として、ガラスに金属膜をコーティングすることで電気を通す機能を持たせる製品や液晶画面の映像をより鮮明に映し出すための技術革新について説明を受けた。



企業活動の説明を受ける学生達

◎見学会を終えて

企業見学にご協力頂いた2社は強みを活かして成長を続けている企業。その勢いを現場作業員ひとりひとりの姿から感じとってもらえることができて、有意義な見学会となりました。



群馬県中小企業団体青年協議会

他県青年部との交流会開催

茨城県・千葉県・群馬県・栃木県の青年部による異業種交流



山城晃一理事長

◆視察
初めに、主催県の栃木県青年中央会会長小林誠氏が歓迎挨拶を行った後、平家の里湯西川協同組合が指定管理者として管理・運営する「平家の里」を視察。同施設は、平家落人たちの生きざまや生活様式を後世に保存継承する拠点として復元されたもので、施設内の郷土文化伝習館、民芸品加工所、生産物直売所、展示館、お休み処などを見学した。

◆講演会・懇親会
視察終了後「湯西川温泉の現状と課題」活性化の取り組み事例を

9月5日、栃木県日光市湯西川温泉において、茨城県・千葉県・群馬県・栃木県の青年中央会による交流会が開催され、本県青年協議会より久保田雅幸会長をはじめ8名が参加した。

交えて」をテーマに、平家の里湯西川協同組合・湯西川温泉旅館協同組合の山城晃一理事長より講演が行われた。

湯西川温泉の旅館・ホテルは15軒。最盛期には、年間延べ40万人の集客者数があったが、現在半数まで落ち込んでいると述べ、「かまくら祭」「竹の宵まつり」「かわあかり」「オーロラファンタジー」などのイベントを開催し、集客力アップを図っていると語った。

また、近隣の運動場と連携したサッカークラブの合宿の誘致活動も紹介し、イベントが根づくには10年程時間がかかるため、継続することが重要であると力説した。

さらに、自身の経験を通じて、経営者は従業員に対して将来ビジョンを示し、積極的に対話することが重要であり、そのためには、経営者自身の魅力を高める必要があると熱く語った。

研修終了後、交流懇親会が開催され、千葉県中小企業団体青年中央会代表幹事山口真延氏の音頭で乾杯した後、参加者全員が各県毎に登壇し自己紹介を行った。終始和やかな雰囲気の中、参加者は交流・懇親を図った。

群馬県中小企業団体事務局長会

夏季研修会・県内視察研修会開催

県内のホットスポットを巡る



製糸場の視察の様子

9月9日、群馬県中小企業団体事務局長会（川岸一義会長、会員45人）は、富岡製糸場、株式会社I・H・エアロスペース富岡事業所、高崎卸商社街協同組合において、夏季研修会・県内視察研修会を開催した。

最初に、会員である富岡機械金属工業団地協同組合事務局長石田節良氏の案内で、富岡の街中を見て回った。長く富岡に暮らす経験を生かした解説を聞きながら街中を歩いた後、製糸場に入場。東繭倉庫、西繭倉庫、煙突、繰糸場、ブリュナ館の順に見学した。場内はもちろん、街中も製糸場を見学

に来た観光客で賑わっていた。

次に、株式会社I・H・エアロスペース富岡事業所に場所を移した。VTRで事業所概要の紹介を受けた後、特別に許可をもらい、工場の見学を行った。ロケットに必要な条件やそれを実現するための技術について解説を受けながら、製造工程を見学して回った。

最後に向かった高崎卸商社街協同組合では、新展示ホールビッグキューブ内を見学。同組合事務局長田中政貴氏から施設の概要について説明を受けた。利用状況や運営方法等について、踏み込んだ質疑応答が行われた。

研修終了後、暑気払いを開催。田部井俊勝副会長の挨拶の後、津久井真次理事の音頭で乾杯した。会話は和やかな雰囲気のまま、交流・懇親が深められ、霜田信二理事の中メが行われた。

◎研修を終えて

富岡の街中は平日の炎天下の中にもかかわらず、大勢の観光客で賑わっていました。魅力ある地域資源を活用し、活性化に成功している事例だと感じました。